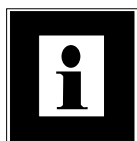




No. 8

2001 - 5 - 25
日本蜘蛛学会



インフォメーション 日本蜘蛛学会第33回大会 は沖縄で開催

日本クモ学会の第33回大会は2001年8月25日(土)、26日(日)の両日、メルパルクOKINAWA(沖縄県那覇市字松川20)を会場にして開催される。

日程

- 25日(土) 9:30~12:00 口頭発表
13:00~14:00 総会
14:00~17:00 シンポジウム
17:10~18:10 自然保護委員会
18:30~20:30 懇親会
26日(日) 9:30~12:00 口頭発表
13:00~15:00 ポスター発表

講演数等により時間帯が変更されることもありうる。

問合せ先:

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地
琉球大学教育学部

下謝名 松榮 Tel: 098-895-8362

琉球大学資料館

佐々木 健志 Tel: 098-895-8841



学会奨励賞はイエガー氏に決まる

日本蜘蛛学会奨励賞の第1回の受賞者はドイツのペーター・イエガー氏に決定した。同氏はマインツ大学に籍を置き、おもにアシダカグモ類の系統分類学的研究を行なっている。

イエガー氏のおもなフィールドはアジア(特に日本、ネパール、中国など)であり、その研究の成果は最近のActa Arachnologicaにも掲載されているので、ご存じの方もいるはずである。

外国人の受賞者に驚かれた方もいるかもしれないが、このことが欧米の研究者にもよい刺激を与えて、今後の海外の研究者との交流に大いに役立つことが期待される。

(新海 明)



同好会情報

日本には日本蜘蛛学会だけでなく、各地に同好会がある。ここでは、そこで行なわれる採集会や講演会、そこで発行される定期刊行物などの活動内容を紹介する。興味を持たれた方はぜひ入会して、行事などに参加されてはいかがでしょうか。

中部蜘蛛懇談会（代表：緒方清人）
会報「蜘蛛」を年1回、「まどい」を年3回発行．採集会・例会を年数回実施．

採集観察会は，
2001年5月27日（日）

名古屋市緑区大高緑地公園（担当者 緒方清人）
公園内の駐車場に午前10時集合
参加者は必ず担当者まで電話連絡をすること．

7月1日（日）

岐阜県揖斐郡池田町池田山（担当者 永井 均）
東海道線大垣駅北口（裏口）午前10時集合
参加者は必ず担当者まで電話連絡をすること．

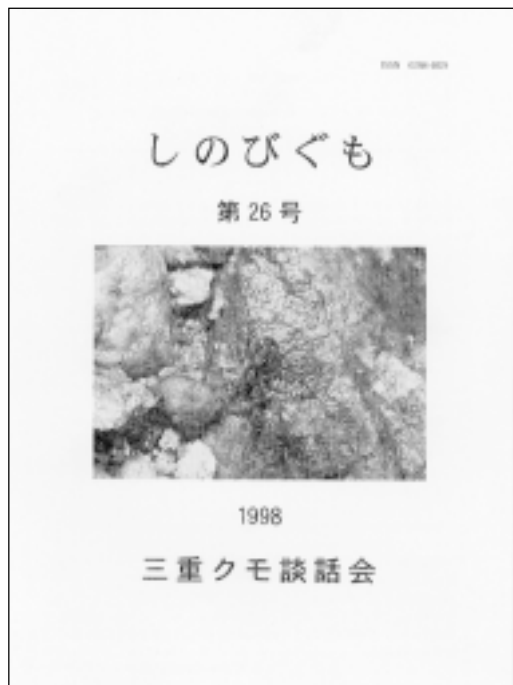
9月30日（日）

名古屋市守山区小幡緑地（担当者 村上 勝）
詳細は未定

11月3日（日）

瀬戸市定光寺（担当者 石井幸子）
詳細は未定

合宿は，三重蜘蛛談話会との合同で，2001年8月に実施．詳細は未定．



総会・研究会は，2002年2月11日（月）に予定．

蜘蛛（KUMO）32/33号（2000.6.30発行）
内容は遊絲7号を参照のこと．

入会申し込み

〒444-0076 岡崎市井田町字荒居 47-6

板倉泰弘（事務局）

Tel 0564-28-5857

E-mail : yasuhi@heatful.or.jp

会費

正会員 年2500円（高校生以下1000円）

準会員 「まどい」のみ500円

三重クモ談話会（本部：太田定浩）

会報「しのびぐも」を年1回発行．採集会・合宿・例会などを年数回実施．

今年度の採集観察会は，飯南郡飯南町飯高町一帯にて実施．

2001年 6月3日（日）

9月16日（日）

12月2日（日）

いずれも JR/近鉄松坂駅 午前9時集合．

大雨以外は決行．参加希望者は事務局まで連絡のこと．

夏の観察採集会[8月4日（土）～5日（日）]
の集合時間や宿舎などは後日連絡．

総会兼同定学習会，懇親会は，2002年2月16日（土）～17日（日），津市において専門家を招いて実施の予定．詳細は後日連絡．

しのびぐも 28号（2001.3発行）

緒方清人：旭町駒山のクモ

福島彬人：ジョロウグモの「かくれ帯」
 新海 明：関東地方でのクロマルイソウロウグモの採集記録
 橋本理市：冬季休耕田のクモ
 三重クモ談話会活動報告
 三重クモ談話会会員名簿
 入会申し込み
 〒515-0044 三重県松阪市久保町 1843-157
 貝發憲治（事務局）
 Tel (Fax) 0598-29-6427
 会 費 年 1500 円

和歌山クモの会（会長：米田 宏）
 会報「和歌山クモの会会報」を年1回発行。
 総会・観察会を年1回開催。

採集観察会および総会は、2001年7月29日（日）に海南市孟子不動谷で実施。
 集合場所はJR海南駅

和歌山クモの会会報 No.10(2000.9.30 発行)
 内容は、遊絲7号を参照のこと

入会申し込み
 〒642-0002 海南市日方 1156
 東條 清（事務局）
 会 費 年 500 円

東京蜘蛛談話会（会長：萱嶋 泉）
 会報「KISHIDAIA」を年2回、「談話会通信」を年3回発行。採集会年4回・合宿年1回・総会例会などを年2回実施。

今年度の採集会は、神奈川県横浜市円海山水取沢市民の森
 2001年7月8日（日）

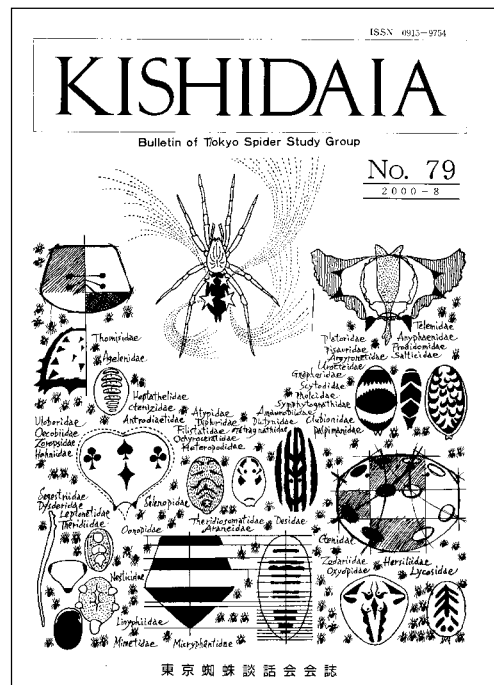
10月14日（日）
 2002年2月17日（日）
 JR根岸線港南台駅 午前10時集合
 世話人 安田明雄（045-934-9210）

合宿は、
 2001年7月20日（金）～22日（日）
 富山県立山山麓スキー場群付近
 宿舎：極楽坂スキー場「観山荘」
 富山県上新川郡大山町原58-3
 費用：8000円（1泊3食）
 申し込み：190-0022

立川市錦町3-12-16-1103
 新海 明
 Tel (FAX) 042-522-2605

合同例会は、
 2001年12月2日（日）の予定。詳細未定。

KISHIDAIA 80号（2001.4.30 発行）
 熊田憲一・萩本房江・加藤輝代子・新海 明：



トリノフンダマシ類の幼体の捕食行動
入江照雄：オダカウレイグモについて
本田重義：造網性クモ類群集の種内・種間関係
新海 明：スズミグモの分布拡大の記録
新海 明：ジョロウグモはどこで採られたのか
（ローレツ氏の採集地をめぐる考察）
日置乃武子：ムツトガイセキグモ観察日記
榎元敏也：コブクモヒメバチのゴミグモへの寄生
杉山 明：ビジョオニグモについての観察報告
DRAGLINES
新海 明：ジョロウグモの黄色と黒の模様
安田明雄：棚網・不規則網に侵入するシロカ
ネイソウロウグモ
笹岡文雄：樹上のキシノウエトタテグモ
甲野 涼：オオツリガネヒメグモに寄生した
クモバチ幼虫の正体は？
泉 宏子：飼育ハンゲツオスナキグモの寿命
谷川明男：オオジョロウグモは腹部で太陽を
指し示す
甲野 涼：ウロコアシナガグモに寄生した幼
虫の正体は？
新海 明：裏磐梯でトリノフンダマシを発見
笹岡文雄：マダラヒメグモの寿命について
<目録ドラッグライズ>
新海 明：岐阜市金華山（岐阜城）のクモ
新海 明：京都市高雄周辺のクモ
八幡明彦：小笠原のクモ
八幡明彦：石垣・西表クモ観察記
新海 明：県別クモ類文献リストの一覧
池田博明：東京蜘蛛談話会 2000 年度静岡県中
川根町合宿報告
谷川明男：日本産クモ類目録（2000 年版）補
遺 1
入会申し込み
〒229-0038

相模原市星が丘 1-5-5
今井正巳（事務局）
Tel 042-755-3086
会費 年 3800 円（学生 2000 円）
関西クモ研究会（会長：山野忠清）
会報「くものいと」を年 2~3 回発行．採集
会・研究会例会などを年数回実施．
採集会は，2001 年 6 月 3 日（日）奈良県．
9 月 9 日（日）奈良県？．詳細未定．
決まり次第，会員に連絡の予定．
例会は，2001 年 12 月 23 日（日）に大阪府
の四天王寺高校で実施．
くものいと 29 号（2001.1.31 発行）
特集 採集に行こう！ 私のとっておき，関西
のフィールド紹介
吉田 真：京都府 静原と大原
山野忠清：大阪府 豊能郡能勢町
東條 清：和歌山県内クモ類の観察・採集地案
内
西川喜朗：滋賀県の好採集地
佐々木健志：special 沖縄編 沖縄島南部のクモ
採集地
吉田 真：ミニ特集 20 世紀のクモ本
フィールド紹介
榎元とも子：近いのがメリット「皇子が丘公園」
同定指南
加村隆英：ワシグモ科 Gnaphosidae（その 2）
海外の研究トレンド（3）
榎元敏也：コモリグモの脚の飾りの役割
クモリスト
吉田 真：大原と修学院のクモ
田中穂積：兵庫県（数ヶ所）の採集記録

赤松史憲：私の蜘蛛採集記録（奈良県内）

関西クモ研究会採集会報告

清水裕行：第3回姫路市青山採集会標本目録

坂口佳史：関西クモ研究会奈良市内採集会の報告

21世紀の抱負

山本一幸：身近なクモに関する話3題

清水裕行：新世紀を迎えて決意したこと
寄稿

須賀瑛文：蜘蛛（クモ）が付く地名があった

船曳和代：ゲホウグモの網採り奮戦記

清水裕行：2000年秋のゴケグモ情報

西野真由子：クモの生活 マネキグモの不思議
会員ニュース

ゆうすけ美術館

関西クモ研究会会則

スズミグモ調査のお願い

入会申し込み

〒567-8502 茨木市西安威 2-1-15

追手門学院大学生物学研究室内

関西クモ研究会

Tel 0726-41-9555（西川研）

0726-41-9550（加村研）

Fax 0726-43-9432（大学教務課）

会費 年1000円

関西クモゼミ

1~2ヶ月に1回 滋賀県草津市の立命館大学
で開催。会費などなく誰でも参加できる。

連絡先

立命館大学理工学部生物工学科 吉田 真

077-561-2660

E-mail:myoshida@se.ritsumeit.ac.jp

東京クモゼミ

毎月1回、第1日曜日に千葉県市川市の加藤

宅で開催。会費などなく誰でも参加できる。

連絡先 新海 明 042-522-2605

（新海 明）

言いたい！聞きたい！！



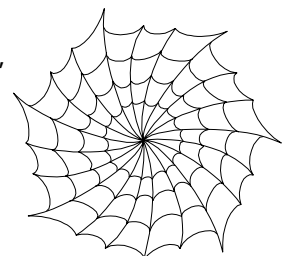
クモリストをもっと作ろう

新海 明

再びクモリストを

私はかつて関西クモ研究会会誌「くものい」と、各地のクモリストを作成するように呼び掛けたことがある（くものいと27号）。この中で「かつて、あれだけ Atypus 誌上を賑わしていた各地の分布リストであるが、いつの頃からかその発表がプツリと途絶えてしまった。どのような経緯でなくなったか私には知る由もない。けれども、日本各地にどのようなクモが生息しているのかという現状の記載は大変に重要な仕事であると考えている。これがなければ『分布論』にしても、『絶滅危惧種の選定』にしても、一切の議論が始まらないではないか。我々アマチュアが最も得意とするのはまさに『各地のリスト作り』であろう。採集リストが研究としては不当に低い評価を受けていることはよく承知しているつもりである。それは『そのためだけ』になされているからであろう。けれど、日本に分布するクモ相を

解明するためには、是非ともなされねばならない重要な仕事でもあるはずである」と述べた。



この考えは今も変わっていない。たとえ「そのためだけ」になされたリストであろうと、たくさん集まれば意味をもつようになる。最近の Kishidaia の目録 Draglines には 10 種あまりしかない、私の恥ずかしいリストがたくさん掲載されている。「こんなつまらないリストを書いて」とのお叱りは甘んじてお受けしたい。でも、かつての Kishidaia にもこのようなリストがたくさん掲載されていたのだ。県別にまとめられたリストはものすごく重要だが、旅行の折々にちょっと見つけたクモのリストも大切である。ただ、発表されなければまったく意味をなさない。いくら昔のものでも構わないので、手元に埋もれてしまったクモリストがあったら是非とも発表していただければと願っている。

クモリストの絶滅の推移

私は長い間、多少の浮気はしたもののクモの網ばかり追い掛けてきた。クモリストの作成などほとんど眼中になかった。正直に告白すれば私もまたクモリストの作成などあまり大した意味がないと思っていたのに相違ない。けれども、ここ数年間は以前に抱いていたそのような気持ちを反省し、リスト作成の必要性を説いて回っている。その動機はいくつかある。ひとつにはリストの作成作業そのものが絶滅の危機に瀕していることである。また、クモ好きのアマチュアが最も得意とすることはクモ集め、つまり採集リストの作成である。そして、日本各地にすでに素晴らしいクモリストを作成している方々が大勢いるにもかかわらず、発表の機会が失われていることに気付いたためである。さらに、同好者と話をしていると「どこどこでこんなクモを採集したのだけれども」という情報を頻繁に耳にするのである。「是非報告してください」と発表を促すのだが、なかなか発表をししてく

さる方は少ないのが現状である。これらのことがあいまって、なんとかリスト作成をもう一度復活させなければと強く思うようになった。

表 1 は Atypus と Kishidaia に掲載されたリスト数を 10 年単位にまとめたものである。ただし、最後のみは 9 年間となっている。

表 1. クモリストの絶滅の推移

発行年	Atypus			Kishidaia		
	合計	1年あたり	1号あたり	合計	1年あたり	1号あたり
1952~1961	33	3.3	1.3	1969年に創刊71年までは対象外とした		
1962~1971	52	5.2	1.6			
1972~1981	23	2.3	1.0	(29) 19	(2.9) 1.9	(1.8) 1.2
1982~1991	8	0.8	0.4	(28) 19	(2.8) 1.9	(1.9) 1.3
1992~2000	1992年に廃刊			(30) 10	(3.3) 1.1	(1.8) 0.6

Kishidaia のカッコ内はリスト数の合計だが、ここには談話会の採集会や合宿の活動報告がふくまれている。そこで、個人的に発表したものだけの数値をカッコの下に記した Atypus との比較やリスト発表数の推移を知るにはこの数字を用いた方がよいだろう。この表をみるとわかるように、Atypus においては 1962 年から 1971 年がもっとも多く年間 5.2 編ものリストが発表されていた。それにたいして、1982 年から 1991 年の 10 年間では年平均 0.8 編しか発表されなくなってしまう。

Kishidaia も 1972 年から 1991 年までは年平均 1.9 編だったのが、1992 年以降は平均 1.1 編となっている。やはり、リスト作成は低調になっているようである。一方、Kishidaia の力

ッコ内の数字をみていただきたい。ほぼ一定に保たれていることがわかる。むしろ、最後の9年間は以前よりも増加傾向にある。これは採集会や合宿などの活動報告がきちんと行なわれているためであろう。リスト作りをこのように組織的に実施することも「絶滅」から守るひとつの有力な方法であるかも知れない。

クモリスト作りは続いている

現在、私は県別リスト作成の必要性を各地で説いてまわっている。すでに多くの方の賛同を得て少しずつその準備が整えられつつある。しかし、これは県単位の大きなリストである。ある場所に一日だけ立ち寄り調べたリストも大切であろう。過日、広島在住の井原 庸氏と話していた折りに、同氏は日本各地で採集したヤチグモ類やサラグモ類の未発表のリストを数多く持っておられるということをお聞きした。一ヶ所では数種類しかならないので、なかなか発表しにくいと言っておられた。しかし、井原氏が採集するクモは多くのクモ研究者がいつも避けてしまう種類なので、数種類のリストであっても非常に貴重なものであるに相違ない。このようなリストが埋もれてしまっているのは残念でならない。Kishidaia の目録ドラッグラインを是非ご利用願いたいものだ。

新海栄一氏が個人で所有するクモリストはたぶん日本一であろう。推測するに自分で採集したものだけからなる、ほぼ日本全国の各都道府県別のリストを持っているようだ。しかし、そのほとんどが未発表である。これでは利用しなくても利用できない。是非発表してもらいたいものである。この他に私が知り得たかぎりでも、幾人もの方が400~500種類も掲載できる県別クモリストを持っているにもかかわらず未発表である。それぞれにさまざまな事情があるに違

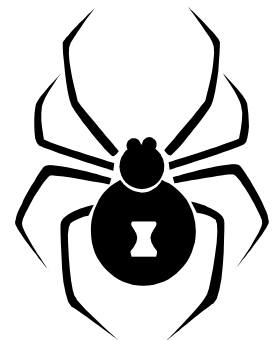
いないが、一日も早くそれらのリストが公表されることを願っている。

リスト作りにあたって

各地のクモリストを作成するにあたっては、自分が書きたいように書く。これでよいのだが、できたら、あくまで、「できたら」であるが、次のような点に留意されてまとめられるとよいと思う。まず、採集日時と場所をしっかりと明記する。採集場所もはっきりと書いた方がよいだろう。かつての Atypus や Kishidaia のなかの発表には「クモリスト」なのか「エッセー」なのか題名からは不明なものや「どこで採集したのか」がはっきりしないものも結構みられる。題名の下や横にせめて「副題」として具体的な地名を添えておくことよいのではないだろうか。また、採集したクモの雌雄の区別や育成段階も記してあるとよいと思う。Kishidaia77号の「あっちこちのクモ=目録 DRAGGLINES の創設について」でこのあたりのことを詳しく書いたことがあるので参考にさせていただけたらと思う。

一方、県別のクモリストを作成するなどの大部のものの場合には、まず自分が採集したものが、他のリストからの引用なのかを区別できるように記述してほしい。当然ながら、引用文献は末尾に添付しておく。場所や日時の記載をするのは前述の通りである。「〇〇県のクモ」などとした目録ではクモの和名と学名を列記しただけのものもみられるが、できたら、より具体的に「引用文献や採集した場所や日時」の記載をお願いしたい。

リスト作成にあたり、もっともやっか



いなのが学名の書込やその並べ方であろう。科名や学名、その配列についての独自の見解を持っておられる方は別であるが、特にこの辺りの事情にこだわらない方の場合には、谷川明男氏による「目録作成への協力」プログラムがあるので、直接ご本人まで問い合わせただけであればと思う。和名と場所日時、文献などの必要な情報のみを記して送付していただければ、並べ方を考えたり科別にまとめたり、学名を書く必要もないので、是非ご利用していただければ幸いです。また、それ以前に同定作業で行き詰まっている方も、「同定作業への協力」プログラムがあるので、こちらも谷川さんまで問い合わせただけであれば、折り返し貴重な情報が送られてくるであろう。

報告する場に困っている場合には、東京クモ談話会会誌 Kishidaia をお薦めする。まとまったリストならば超過ページ代をとらずに掲載することがすでに決まっている。

県別でも、数種類でも、古くても、新しくても構わない。日本各地でクモの採集をしておられる多くの方が、これからもっともっと積極的にクモリストの報告をして下さることを熱望するものである。

南ア国際学会で見かけた人々

長崎緑子

3月26日から3月30日まで南アフリカ共和国東北部に位置する Badplaas という片田舎の高級リゾート地で開催された国際クモ学会に参加しました。そのため日本で満開の桜を愛でそびれてしまいましたが、代わりに今は盛りの国際的クモ学者と多く接する機会を得ました。そこで私が見かけたクモ学者と彼らの印象をここ



写真1 . J. Coddington

に記します。

3月24日、学会前々日、分類で特に有名な J. Coddington と N. Platnick を遠目に見かけました(写真1は J. Coddington)。N. Platnick はずっしりとした体格の中年男性でした。私が見かけた2人は太く響く声で早口に話していました。当然のことながら英語でした。J. Coddington は円網種の分岐分類あるいはその網の進化研究をしているイメージがありましたが、今回の発表は、一般にシート網と呼ばれるものが体系的にどう分類されるかについて(かな?)。彼の興味はもはや円網だけでなくシート網にも広がっているようです。

N. Platnick は、初日の昼休み前にいきなり司会者からマイクをとって、「世界のクモのデータベースをつくったよー。CD-ROM で売りませー。」という、営業マンみたいな台詞をこの上なく愛想なく話し去っていきました。しかしながらこのデータベース、数年後にはヴァージョ

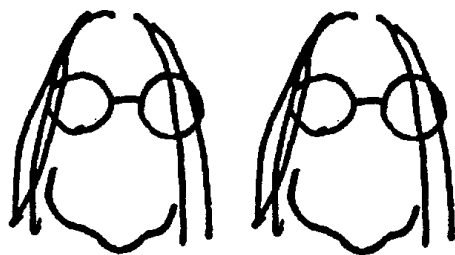


図1 . S. Riechert とお姉さん

ンアップまで考えている壮大な計画らしかったです。

3月25日,大会前日の歓迎会会場.生態学で有名な S. Riechert (図1左)と彼女の学生たちと話す機会(まさに chance!)がありました. どんどん英語で話しかけてくる彼らには名刺とともに東洋の笑みで応戦するのが手一杯. ちなみに S. Riechert はメスグモが大きいオスを交尾相手に選ぶのは,オスが形態的によい遺伝子を持っているからではなくて,攻撃的行動をとる遺伝子を持っているからだということを交配実験でシンプルに示した発表. しかし遺伝子の重要性については,彼女の研究もさることながら,彼女に同行していたお姉さんの顔(図1右)をみることで本当に思い知ることができました.彼女の弟子の TJ くん(本名 Thomas



写真2. TJ と Nadia

John,写真2後方)は,南ではなく北にすむ個体群が社会性を見せる(!)というアシプトヒメグモの仲間を材料に,その社会性の生じる条件を発表. Nadia (写真2前方)はタナグモ(Agelenopsis 属)の系統地理学(Phylogeography)の発表. いろんな題材に精力的に取り組んでいるアメリカンガイ達でした.

3月26日,学会初日. C. Craig (図2)が「クモの糸って芋虫の糸よりも複雑でエネルギーのコストがかかっているのよ!」という内容を,



図2 . C. Craig

糸合成に関わる遺伝子配列や,大学院試験勉強以来見たことのないような同化反応系回路の知見などを導入して発表.同行者 M 氏が「難しいけどおもしろいよ!」という感想を,興奮のため落ちつかない様子で述べるのを後目に,「この先の発表も全部英語なのかぁ」と,違う意味で M 氏と同じように落ちつきをなくした日本人学生も約1名いました.

3月27日,学会2日目夕方.ヒメグモ科の系統関係についてのポスター発表を見に行きました.形態形質のデータ担当の Ingi(写真3右)は社会性の平行進化, DNA データ担当の Miquel(写真3左)はハワイ諸島におけるクモ



写真3 . Miquel, 長崎, Ingi

の種分化に島の生成あるいはクモの移動分散のどちらが関わっているかについて口頭発表していました。Coddington と対等に議論する彼らを見ると少し自信をなくしてしまいましたが、帰国後彼らの発表内容をよく検討すると完全にデータが集まっているわけではないようです。彼らも「くも」のうえの研究者ではなかったのかと思うと、自信をなくしたせいでその日のワインをおいしく飲めなかったことが本当に悔やまれました。

同日、夕食時。「分類の神様だよ」と教えてもらった H. Levi (写真4右)。赤ワインを飲んだ勢いで記念写真をとってもらいました。私も神様の御利益にあやかりたいものです。

3月29日、学会最後の夜。さよならパーティーでちょっと綺麗な中年女性が、独楽のように踊りまくっていました。この女性はイソウロ



写真4 . 長崎, H. Levi

ウグモシンポジウムの司会者, M. Whitehouse (写真5)。私のポスター発表にも来てくれましたが、ギボシヒメグモが彼女の調査しているイソウロウグモに似ていることに大興奮、ギボシヒメグモに関する論文を知らないかという、発表内容そっちのけの質問を受けることになってしまいました。



写真5 . M. Whitehouse

この学会で私が見た有名クモ学者は以上紹介した人々ぐらいでしょうか？否！大変寡黙なゾウムシ研究者1名と多少議論好きなイソウロウグモ研究者2名を忘れてはいけませんでした。彼らとはとてもわかりやすい言語で毎日会話できたので今回の学会中一番勉強になりました。

出会った人々と同様に、国際学会の実力も印象的でした。仮説の明快さ、先行研究における自身の研究の位置づけ、発表技術、聴衆の絶対的人数や質問数などで日本のクモ学会よりも平均的な実力では上回っていました。しかし、日本のクモ学会の研究内容や題材が劣っている訳ではないと思います。国際学会では研究のおもしろさや結果の信頼性について発表者と聴衆とで相互理解する技術、規範が比較的成熟している

だけなのではないでしょうか？次回 2004 年はベルギー，次々回 2007 年はブラジルで国際学会が開催されるようです．2010 年は日本で開催することもあり得るのかなと思いつつ筆を置かせていただこうと思います．

写真日本クモ類大図鑑の 和名学名補足の補足

谷川明男

千国安之輔著写真日本クモ類大図鑑で使われている学名や和名のうち，変更されたものについて前号で報告したが，誤りと収録漏れがあったのでここに補足の補足をする．さらにもれにお気づきの方がおられたらぜひご連絡いただきたい．

なお，図版ページのみについて取り扱い，解説のページについては触れていない．

P.84 68.シマゴミグモ 雄はミナミノシマゴミグモ *Cyclosa confusa* Bösenberg & Strand 1906

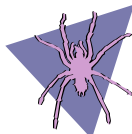
p.86 75.ギンナガゴミグモ クマダギンナガゴミグモ *Cyclosa kumadai* Tanikawa 1992

p.87 77.キジロゴミグモ 雄はヤマゴミグモ

P.118 3.ヒトオビトンビグモの学名 *Hitobia unifascigera* (Bösenberg & Strand 1906)

p.118 5.トンビグモの一種 フタオビトンビグモ *Hitobia yasunosukei* Kamura 1992

p.120 10.マエトビケムリグモの和名 マエトビケムリグモのまま



採集情報

日本各地で採集された，稀産種や分布上の重要種などについての情報を掲載する．これを読み，「私もこんな種類を採集しているぞ」という方はその情報を是非お寄せいただきたい．

ササキグモ

愛知県北設楽郡設楽町裏谷 1994 年 7 月 9 日 成体 2 緒方清人採集．



ササキグモ

ムツトゲイセキグモ

三重県名張市安部田 2000 年 8 月 19 日 成体 1 関根幹夫観察．

スズミグモ

岐阜県益田郡金山町 2000 年 9 月 4 日 成体 1 須賀瑛文採集

サカグチトリノフンダマシ

福岡県京都郡犀川町伊良原 2000 年 10 月 16 日 成体 1 金野 晋採集．

キジロオヒキグモ

福岡県太宰府市宰府 4 丁目大宰府天満宮 2000 年 8 月 11 日 成体 1 馬場友希採集．

ドウシグモ

神奈川県座間市県立座間谷戸山公園 2001 年 5 月 12 日 成体 1 池田博明採集

マルゴミグモ

神奈川県横浜市港南区 2001年5月13日
成体 成体幼体各2 萩本果南ほか観察採集 .
(新海 明・谷川明男)



最近気がついた分類関係の文献

最近発表された日本のクモの分類に関連のある論文をいくつか簡単に紹介する .

: Yoshida, H. 2000. A new species of the genus *Euryopsis* (Araneae: Theridiidae) from Japan. *Acta Arachnol.*, 49:133-135.
Euryopsis nigra Yoshida 2000 クロヒラタヒメグモを記載 .

: Yoshida, H. 2000. The spider genus *Achaearanea* (Araneae: Theridiidae) from Japan. *Acta Arachnol.*, 49:137-153. 日本産のツリガネヒメグモ属について再検討し, *Achaearanea ryukyu* Yoshida 2000 リュウキュウヒメグモを新種として記載, *Achaearanea simulans* (Thorell 1875)八モンヒメグモを日本新記録として報告した .

: Tanaka, H. 2000. A new species of the genus *Tricca* (Araneae: Lycosidae) from Japan. *Acta Arachnol.*, 49:155-157.
Arctosa yasudai (Tanaka 2000) ヤスダコモリグモを新種として記載した .

: Kamura, T. 2000. Three species of the genera *Zelotes* and *Aphantaulax* (Araneae: Gnaphosidae) from Japan. *Acta Arachnol.*, 49:159-164. *Zelotes bifukaensis* Kamura 2000 ビフカケムリグモを新種として記載し, *Zelotes kimwha* Paik 1986 ミカドケムリグモ, *Aphantaulax seminigra* Simon 1878 ヒメト

ンビグモを追加日本新記録として報告した .

: Shimojana, M. 2000. Description of eleven new species of the genus *Coelotes* (Araneae: Amaurobiidae) from the Ryukyu Islands, Japan. *Acta Arachnol.*, 49: 165-189. 次の 11 種を新種として記載した .
Coelotes keramaensis Shimojana 2000 ケラマヤチグモ, *Coelotes tonakiensis* Shimojana 2000 トナキヤチグモ, *Coelotes aguniensis* Shimojana 2000 アグニヤチグモ, *Coelotes miyakoensis* Shimojana 2000 ミヤコヤチグモ, *Coelotes senkakuensis* Shimojana 2000 センカクヤチグモ, *Coelotes motobuensis* Shimojana 2000 モトブヤチグモ, *Coelotes shimajiriensis* Shimojana 2000 シマジリヤチグモ, *Coelotes iheyaensis* Shimojana 2000 イヘヤヤチグモ, *Coelotes yambaruensis* Shimojana 2000 ヤンバルヤチグモ, *Coelotes izenaensis* Shimojana 2000 イゼナヤチグモ, *Coelotes kumejimanus* Shimojana 2000 オオタケヤチグモ .

: Shimojana, M. 2000. Description of seven new species of the genus *Coelotes* (Arachnida: Araneae: Amaurobiidae) from the Amami and the Tokara Islands, Japan. *Acta Arachnol.*, 49:191-204. 次の 7 種を新種として記載した .
Coelotes oshimaensis Shimojana 2000 オオシマヤチグモ, *Coelotes tokunoshimaensis* Shimojana 2000 トクノシマヤチグモ, *Coelotes tokaraensis* Shimojana 2000 トカラヤチグモ, *Coelotes insulanus* Shimojana 2000 シマヤチグモ, *Coelotes nasensis* Shimojana 2000 ナセヤチグモ, *Coelotes akakinaensis* Shimojana 2000 アカキナヤチグモ, *Coelotes kakeromaensis* Shimojana 2000 カケロマヤ

チグモ .

: Tanikawa, A. 2000. Occurrence of *Larinia bonneti* (Araneae: Araneidae) in Japan. *Acta Arachnol.*, 49:205–207.

Larinia bonneti Spassky 1939 ボネコガネグモダマシを日本新記録として報告した .

: Irie, T. 2000. Two new species of the genus *Leptoneta* (Araneae: Leptonetidae) from Kumamoto Prefecture, Kyushu, Japan. *Acta Arachnol.*, 49:209–214.

Leptoneta kinoshitai Irie 2000 キノシタシラグモ , *Leptoneta chibusana* Irie 2000 チブサンマシラグモを新種として記載した .

: Irie, T. 2000. A newly recorded spider from Japan, *Micropholcus fauroti* (Simon 1887)(Araneae: Pholcidae). *Acta Arachnol.*, 49:215–217. *Micropholcus fauroti* (Simon 1887)アジアユウレイグモを日本新記録として報告した .

: Shimojana, M. & Haupt, J. 2000. A new nemesiid spider from the Ryukyu Archipelago, Japan. *Zoosystema*, 22: 709–717. *Sinopesa kumensis* Shimojana & Haupt 2000 を新種として記載した . 日本産初のイボトグモ科のクモである .

: Saito, H. & Ono, H. 2001. New genera and species of the spider family Linyphiidae (Arachnida, Araneae) from Japan. *Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, Ser. A*, 27: 1–59. 次の3新属と24新種を記載した . *Nipponotusukuru* Saito & Ono 2001 マジナイケシグモ属 , *Tojinium* Saito & Ono 2001 トウジヌカグモ属 , *Ryojius* Saito & Ono 2001 オオイヤマケシグモ属 , *Hypselistes australis* Saito & Ono 2001 ミナミツノタテグモ , *Oedotorax sexmaculatus* Saito & Ono 2001

ムツボシミヤマアカムネグモ , *Tmeticus nesperigonoides* Saito & Ono 2001 ナンキンヌカグモ , *Tmeticus vulcanicus* Saito & Ono 2001 ミヤケジヌカグモ , *Tmeticus nigerrimus* Saito & Ono 2001 ミヤマクロヌカグモ , *Gongylidioides galeritus* Saito & Ono 2001 チョンマゲズキンヌカグモ , *Gongylidioides monocornis* Saito & Ono 2001 イッカクズキンヌカグモ , *Gongylidioides communis* Saito & Ono 2001 ナミズキンヌカグモ , *Gongylidioides kaihotsui* Saito & Ono 2001 カイホツズキンヌカグモ , *Walckenaeria ichifusaensis* Saito & Ono 2001 イチフサチヨビヒゲヌカグモ , *Walckenaeria chikunii* Saito & Ono 2001 チクニコブヌカグモ , *Nipponotusukuru enzanensis* Saito & Ono 2001 エンザンマジナイケシグモ , *Nipponotusukuru spiniger* Saito & Ono 2001 ザオウマジナイケシグモ , *Tapinocyba suganamii* Saito & Ono 2001 スガナミヤマジコナグモ , *Tojinium japonicum* Saito & Ono 2001 ヤマトトウジヌカグモ , *Erigone edentata* Saito & Ono 2001 マルムネヒザグモ , *Saitonia kawaguchikonis* Saito & Ono 2001 カワグチココヌカグモ , *Diplocephalus hispidulus* Saito & Ono 2001 フサムナキグモ , *Tibioploides escovianus* Saito & Ono 2001 エスコフクロサラグモ , *Tibioploides monticola* Saito & Ono 2001 ヤマクロサラグモ , *Asthenargus nipponius* Saito & Ono 2001 ニホンウスイロサラグモ , *Asthenargus matsudae* Saito & Ono 2001 ヒメウスイロサラグモ , *Ryojius japonicus* Saito & Ono 2001 ヤマトオオイヤマケシグモ , *Ryojius occidentalis* Saito & Ono 2001 カンサイオオイヤマケシグモ . *Tmeticus bipunctis*

Bösenberg & Strand 1906 ヌカグモを *Oedothorax* から *Tmeticus* へ転属し, *Tmeticus japonicus* Oi 1960 を本種の新参シノニムとした.

: Tanikawa, A. 2000. *Okileucauge sasakii*, a new genus and species of spider from Okinawajima Island, Southwest Japan (Araneae, Tetragnathidae). J. Arachnol., 29: 16-20. *Okileucauge* Tanikawa 2001 ササキグモ属を新属として記載し, *Okileucauge sasakii* Tanikawa 2001 ササキグモを新種として記載した.

(谷川明男)



ギャラリー



指に噛みつくイソコモリグモの雄

写真をとっているうちに噛みつかれた。しかし、その写真を撮ることができるほどの痛みしかなかった。(谷川明男)

編集後記

ここ何号かは順調に原稿が集まり「これなら大丈夫だ」と油断していたらば、今回は揺り戻しがきてしまった。原稿が集まらなかったならば自分で書くしかない・・・と決めているが、

やっぱり大変です。皆様のご協力をお願いします。

ちょっとしたクモの観察記録や紀行文などなんでも構いません。また、各地の採集情報も、もっとあったら良いと思っています。遠慮なくご投稿下さい。(新海 明)

原稿送付先

〒190-0022 立川市錦町 3-12-16-1103

新海 明まで

E-mail では dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp (谷川明男) まで

発行は、年 2 回(5 月, 11 月)の予定。締切は発行月の前月末日です。

日本蜘蛛学会

入退会は

事務局

305-8604 つくば市観音台 3-1

農業環境技術研究所環境生物部

田中幸一

Tel: 0298-38-8313 Fax: 0298-38-8307

E-mail: tanaka@nic.ac.jp

会費の問い合わせ及び住所変更は

会計幹事

170-0004 豊島区北大塚 3-12-2

笹岡文雄

E-mail: spydm@big.or.jp

Tel 03-3918-1945

年会費 正会員 7000 円(学生は 5000 円)

郵便振替口座 00970-3-46745

ホームページ: <http://www.asahi-net.or.jp/~hi2h-ikd/asjapan/index.htm>

遊絲 第 8 号

2001 年 5 月 25 日発行

編集者 新海 明, 谷川明男, 池田博明

発行者 日本蜘蛛学会 会長 吉田 真